

「碑(いしぶみ)の記憶」デジタルプロジェクト 第26回AMDアワードで「リージョナル賞」受賞

IBC岩手放送と岩手日報社が共同で展開している「碑(いしぶみ)の記憶」プロジェクトが、デジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー'20/第26回AMDアワードで「リージョナル賞」を受賞した。

9日、アワードを主催する(一社)デジタルメディア協会が発表した。

「碑の記憶」は、岩手県沿岸に200以上も残る津波災害を伝承する「石碑」と、東日本大震災津波を未来に伝える「人」の物語とをあわせ、岩手日報社が紙面で連載している企画記事。

そこに掲載された「石碑」や「震災遺構」を、IBC岩手放送がVR(バーチャルリアリティ)技術を使い、石碑に刻まれた文言も音声化しながら、VR映像で表現。まるでその場所を訪れたような体験ができる。

2019年3月11日から両社のホームページの共通特設サイトで記事と映像を公開。以降、毎月命日にVR動画を公開するとともに企画記事をアーカイブし続けている。

地域に伝わる津波災害の記憶を、VR映像など最新のデジタル技術で表現したWEBサイトは、ホームページ上での閲覧だけでなく、岩手県内の高校でVRゴーグルを使った「震災学習」でも活用され始めている。



「碑の記憶」特設サイト <https://www.iwate-np.co.jp/content/ishibumi/> (岩手日報)
<https://www.ibc.co.jp/ishibumi/> (IBC岩手放送)

デジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー'20 / AMDアワード「リージョナル賞」

(一社)デジタルメディア協会(略称AMD)が、デジタルコンテンツ産業の発展のために、デジタルメディアの質的向上・人材育成を目的として「AMDアワード」を制定し、毎年「大賞」「優秀賞」「功労賞」などを選出。

このうち「リージョナル賞」は地域に根ざしたデジタルコンテンツやサービスの中で、最も優れた功績をあげた人物・団体の該当1作品に授与される。

受賞理由

地域の新聞社と放送局が垣根を越えて手を携え、地域で伝承すべき災害の記憶を、VR映像などのデジタル技術を使って未来に伝える活動を続けている。過去の津波災害や東日本大震災の記憶を「デジタルで風化させない」取り組みは、「現代の碑(いしぶみ)」として、地域の未来を担う若い世代へ確実に伝わり始めている。

*なお授賞式は、4月21日(水)に東京・帝国ホテルで行われる。